

# 水が語るもの



## 川シリーズ THE RIVER セタと星々伝説の里 天野川

水ものがたり  
京都の水インフラⅢ

世界の水  
水辺空間を生かした都市再生の事例  
—ヨーロッパ(その2)—

近畿の水名橋  
水と文学 水辺のミュージアム  
昭和28年8月 南山城大水害(Ⅱ)

うおーたーねっと  
水都大阪と幻の大阪万国技館(6)

水と土木がある風景  
砂防堰堤 ~砂防のまち交野の近代土木遺産~



上流からダムや堰に流れついたプラスチック製容器や木材など。ダムで回収されなければ海に流れ出てマイクロプラスチック問題につながる。

### 海の脅威 マイクロプラスチック

『見えない』脅威の実態

海を漂うプラスチックゴミは、海鳥の誤飲などの物理的障害のほか、化学物質の毒性への懸念があり、これまで海洋環境の大きな問題となっていた。特に日本近海には、中国やフィリピンなどのアジア諸国から大量のゴミが海に流出し、細片化して流れ着いているとされる。

近年、洗顔剤や歯磨き粉、ボディソープなどにスクラブ剤として使われ古い皮膚や汚れをこすり落とす効果のある微細なプラスチック粒子「マイクロビーズ」が下水処理を通り抜けて海に流出し、海洋生物が摂取し生態系の食物連鎖に影響を及ぼしているという。洗顔剤などのほかにも、環境中に流れ出したプラスチック容器やレジ袋なども紫外線や外的要因により劣化・崩壊し、小さく細片化したものもマイクロビーズと同様に元凶となっている。この微細なプラ

スチック粒子「マイクロプラスチック」は、海洋ごみの約70%を占めるプラスチックゴミのうち、大きさが5mm以下のものと定義されている。環境省の調査によると、マイクロプラスチックは人間の生活圏に近い海域よりも海岸から離れた海域の方が量的に多く、既にマイクロプラスチックによる汚染は外洋にまでも及んでいるという。

#### 生物被害と環境汚染

比較的大きなプラスチックゴミは、これまでも海の生物によって誤飲・誤食される問題が指摘されている。例えば海鳥の場合、消化管がプラスチックで詰まる、消化管の内部がプラスチックで傷つけられる、栄養失調の原因になるなどの脅威である。

このような物理的障害のほか、化学物質の毒性への懸念も広がっている。プラスチックに使われる臭素系難燃材(PBDEs)などの添加剤には有害性が指摘されるものも少なくなく、これらはマイクロプラスチックになっても残留する。また、漂流するプラスチックからは表面に吸着したポリ塩化ビフェニル(PCB)が高い濃度で検出された調査結果もある。これはプラスチックが環境中の微量な化学汚染物質を吸着する性質があること、また劣化により微粒子化が進めば進むほど粒子全体の表面積の増大し、吸着性が増大するためである。

プラスチックを誤飲した海鳥の脂肪に体内で溶け出した有害化学物質が濃縮されているという事例報告は、懸念をさらに大きくしている。

#### 脱プラスチック社会へ

流木や海藻などは微生物の働きなどでや

がて分解し二酸化炭素と水に戻るが、既に海域で起こっているマイクロプラスチックによる環境汚染問題には簡単な解決策はない。分解が起らないプラスチックは時間経過と共に劣化し、細片化・微粒子化する。プラスチック容器などは、生物の飲み込みや有害化学物質の影響を削減するために、細片化する前の回収が重要となる。

今後の対応として、政策面では3R(Reduceリデュース:減らす、Reuseリユース:再利用、Recycleリサイクル:再資源化)の推進を含め、プラスチックの製造から廃棄までを責任をもって管理し、環境中に排出されるプラスチックの量を今まで以上に削減する取り組みが必要となる。

また技術面での取り組みには、マイクロビーズの新たな素材の変更や、また環境にやさしい生分解性プラスチック素材への利用の推進を図ることが必要である。問題が顕在化して以降、洗顔剤などのスクラブ剤はメーカーが素材の転換を図っている。また生分解性プラスチックの研究も進んでいるという。

アメリカでは「マイクロビーズ除去海域法」が成立し、2017年7月からは製造禁止、2018年6月からは販売が全面禁止となった。マイクロプラスチックに吸着したPCB等の有害化学物質は食物連鎖の過程で魚介類に生物濃縮されるが、まだ未解明な部分も多い。海のマイクロプラスチック問題、私たちの食卓に魚介類が並び、最終的にはヒトに跳ね返ってくることを、忘れずにいたい。

本誌は、近畿の「道の駅」、一部の府県および公共施設などに配布しています。インターネット環境をお持ちの場合は、<http://www.kc-center.co.jp/suishitsu/>においても最新号とバックナンバーをご覧いただけます。誠に申し訳ございませんが、バックナンバーの配布は行っておりませんので、ご了承ください。



「星の里いわふね」前の天野川にかかる鯉のぼり  
天の川セタまつりの飾り

# 水が語るもの

第14号 平成29年6月発行(年2回発行)

編集・発行 一般社団法人近畿建設協会 技術部  
〒540-6591 大阪市中央区大手前1-7-31 OMM 13F  
TEL 06-6941-3413 FAX 06-6910-5953  
URL <http://www.kyokai-kinki.or.jp>

「水が語るもの」はインターネットでもご覧いただけます。  
<http://www.kc-center.co.jp/suishitsu/>

水が語るもの 検索

VEGETABLE OIL INK  
植物油インキを使用しています。  
この印刷物は再生可能な紙を使用しております。

# 水が語るもの

表紙写真

大阪府交野市私市「天野川」



## 目次

3	水ものがたり 京都の水インフラⅢ	京都工芸繊維大学 副学長 教授 小野 芳朗
6	川シリーズ 七夕と星々伝説の里 天野川	
10	世界の水 水辺空間を生かした都市再生の事例 ―ヨーロッパ(その2)―	一般社団法人 近畿建設協会・技術顧問 元大阪産業大学教授 中野 雅弘
12	近畿の水 名橋	
14	水と文学 水辺のミュージス	評論家・文化プロデューサー 河内 厚郎
18	昭和28年8月 南山城大水害(Ⅱ)	工学博士 宮井 宏
24	うおーたーねっと 水都大阪と幻の大阪大国技館(6)	水都の会 城北川プロジェクト 代表 藤井 薫
26	水と土木がある風景 砂防堰堤 ～砂防のまち交野の近代土木遺産～	
28	トピックス 海の脅威 マイクロプラスチック	

# 水ものがたり

## 京都の水インフラⅢ

京都工芸繊維大学 副学長 教授

小野 芳朗



前号では、琵琶湖疏水工事の起工趣意書と施工を紹介したが、本号では疏水の大きな目的であった京都盆地の灌漑用水の安定確保に焦点をあて、その動向と効果に関して述べる。

### 五 灌漑用水

起工趣意書中には、「第三 田畑灌漑之事」としてその主要目的の中にあげられ、その増収の効果と、そのための愛宕郡北上ルートが計画当初より計られていた。この「灌漑事業」に関しては、明治十六年十一月十五日の上下京連合区会では、議員安田善兵衛から「開鑿の水利は總て愛宕郡にありて京都は更に得益なし、然るに其工費を上下京區にて負担するは當を得ざる様なり」の質問がでた。それに答えて北垣國道府知事が、「分水の多寡に由て相當の金額を徴収すべきなり、若し徴収に應ぜずんば彼れ假令早魃に苦しむも一滴の水も遣らざるべし」と答弁している。ところが、明治二四年以降の京都市側の

疏水の水力使用台帳には、灌漑用水の使用記録はほぼ存在せず、疏水事業の予算書にも、灌漑用水から得られる水力使用料はあげられていない。灌漑は「水力使用事業」というべきものであったのだろうか。

記載がないことと断片的ではあるが、灌漑用は課金を免除されていた事実があることから、灌漑用水は無料で田畑に供給されたということができる。そもそも、北から南へ流れている各村での灌漑用水脈を横断する形で疏水線路は引かれている。それは慣行水利権の保障であるともいえるし、当初計画より水不足に悩む、これら地域へ供給するために引かれていったともいえる。いずれにせよ、電力、水力、貸地、捕魚、舟運など収入を見込む事業と異なり、「灌漑事業」は全くの公共事業であったともいえる。以降、現在に至るまでこの山科と愛宕郡における慣行水利権用の水として琵琶湖疏水は存在する。

こうしたことから、御所の北部のかつて上賀茂一社の支配を受けた村々も、疏水が横断することにより、疏水水量が無償で供せられたといえる。有償で水力を利用している者は台帳上に使用水量が記載されているが、灌漑用水は無償で供せられたため、記録が存在せず正確な水量が不明である。疏水分線の計画水量五〇個(立方尺毎秒)のうち、十個が御所以下、市中防火用水として使用されたとして、残り四〇個。前掲の京都市の水力使用台帳より分線上で水車、あるいは防火の用途として使用されているものを積算すると、昭和初期の段階で約十三個数えられる。したがって分線沿いの村々へは、渇水時最低で約二七個の灌漑用水が配られていたことになる。

### 六 御用水欠乏事件

疏水工事は、賀茂川の水量で賄えない御所の庭園と、防火の用を保障するものであった。京都市(市)は、

同様に渇水時の水不足に悩む愛宕郡の農村部の灌漑用水補填も含め、疏水分線は完成した。五〇個水量のうち、十個は御所に献納され、その余水が市中防火に供せられた。渇水時十個は、京都市が疏水という新水脈をもって御所に示した契約水量であった。しかしながら、明治二四年新御所用水完成以来、トラブルが続出した。

同年、御用水の水番役が交代する。おそらく、山下家、内藤家各々の子息が跡を継いだと考えられる。その御用水が絶水する事件がおきる。旧来の御用水に加え、疏水分線は水量が保障されており、それに基づいてポンプなどの消防施設が備えられていた。ところが、近年時々用水が欠乏するため、それへの対応の依頼が主殿寮出張所より京都市府知事宛に出された。何がこの欠乏を生んだのか。

明治二五年の夏、晴天続きのため、乾燥著しい御所の屋根へかける水も無く、その用水断絶の理由についての照会が主殿寮出張所より出る。これに京都市参事会が回答した。その理由は疏水分線の賀茂川伏越の樋が漏水していたためとある。また上流の村方でみだりに田面への分量を増



加しているのではないかと、ともいっている。

明治三〇年、主殿寮出張所所長より府知事宛、契約水量六個ないし十個の存在を確認した上で、御所用水不足の原因についての事件を報告している。村方が本年は渇水のため、三週間全量を引用する願が主殿寮出張所宛出され、それを聞き入れた。しかしながら、期限を過ぎても引水を止めず、注意したところ一度は御所へ水を流したが、また止められた。水路を検査すると濫用の形跡があるため、京都府に村を取り締まってほしいとある。また、賀茂川よりの御用水は渇水で止まったが、疏水分線の水量があるため、御所庭園では減水はないと思いきや、絶水した。調査したところ、疏水分線口で堰き止められていたため、雇の水番役を呼び出した。

召還された水番役二名、内藤巳之助、上田長三郎は、御用水路上流村々の用水欠乏を見て、御所側への流水を「緩ニナシ」たことを認めている。水番役が村方の者であるということも前回にも触れてきた。「不肖水番人」の不都合という。彼らの村における

表 京の水インフラの関する主体

	支配(所有者)	管理者	委託者	現場管理	利用者
近世	上賀茂社	社の川奉行	村庄屋	水役人(川役人共同)	村民御所(御花壇奉行)
近代	宮内省	京都府	組戸長・総代	水番役(宮内省雇)	村民御所(主殿寮出張所)

上流小山郷へは遠慮もしている。小山郷は上賀茂社にも逆らい、用水確保の為の御所への直訴、用水の優先引水、新規の掘割を無届で設営するなど、支配を受けながらも自らの年貢がかかる米の生産を最優先する行動をとった。

明治四(一八七二)年、上賀茂社の小山郷支配は終焉し、土地は官有化され、小山村に払い下げられていく。払い下げられた土地に地租がかかる。上賀茂社の水利権は宮内省に移り、水路面は大蔵省の管轄となる。ここ

地位はどのようなものであるのか。

明治十六年渇水の際、府知事宛に御用水を一日間下賜してくれるように願い出た代表が、小山村総代内藤孫次郎であった。内藤孫次郎が明治十三年に宮内省雇の水番役となったが彼は小山村の総代(村長)であった。内藤巳之助は孫次郎の後継者である。また同じく水番役として名をみたと上賀茂村山下長八は、明治八年と九年には上知された土地の払下げを上賀茂村戸長の肩書きで知事宛に求めている。

つまり、宮内省雇の水番役は、単に村方の者で宮内省に雇われたというだけでなく、一方で村の総代や戸長を務め、村の渇水の折には、水量を御用水筋から村方へなるべく多く引用しようとする村民の代表でもあった。そして彼らの家系は、近世にも各村の庄屋を勤めていた家であり、明治以後も村の代表的地位にあった。疏水ができて以来、京都府からの契約水量があるにもかかわらず、しばしば御所が水不足に陥るのは、渇水や琵琶湖水面の低下のような物理的、自然的理由によるものもあるが、その多くは渇水時における村方

で用水の所有者と下流の利用者の主体が一致した。つまり、近世までは用水の一利用者にすぎなかった御所は、近代に御所と同じ主体とみなせる宮内省の水支配移転により、安定した水量を確保するはずであった。しかしながら、それでも、しばしば絶水し、御所に水は届かなかつた。その原因は村方と水番役の差配によるものであった。主殿寮出張所は、京都府を通して抗議するものの、現場の村と水役人は、土地の耕作権が所有権に変わったものの、税を納めることに変わりはない。その為の灌

漑は近世と変りなく優先された。琵琶湖疏水は、構造的変革をなすべき近代的工事であり、それ故官営(府営、のち市営)であった。御所の水量は府から献納という形で保障され、現場の水番役も宮内省雇で御所への水利優先のために働くことが義務付けられていた。しかし、必ずしもそうはならない。むしろ、村の戸長、総代と水番役が同じ主体であるため、渇水時には村方に有利な行動をとった。

こうした動きをみると、土地や「水の利益誘導に水番役が傾いていた」と考えることができる。この点、上賀茂社の領地で、上賀茂社の支配する水利権を、御所よりも優先的に使用していた近世の水番に比べると、京都府と御所間の水量契約や、宮内省が水番役を雇っているという契約の存在を鑑みれば、疏水以後の水不足の原因の方がより悪質である。御所用水の不法な村方への引水は、年を追って次第に大規模になる感がある。分水口を堰き止めたり、樋門を調整するだけではなかった。水車を設けて大量に水を汲み上げ、御所用水を絶水する者も現われた。このように、水源の支配権が変わったとはいえ、その水脈の利用については慣行水利権に基づいた論理で、上流の上賀茂村や小山村は村代表のもとに、田面用水確保に向かったと考えられる。琵琶湖疏水は、その慣行水利権を保障し、補填する一大水脈を公共工事でなした。そしてこのことによって御所への水量が担保されたものの、同一水脈の上流と下流という構造は変わらず、その上流で管理する雇われの水番役は一方、村の利益代表者でもあった。こ

うして近世(あるいは中世)以来の水利構造が根本的に変わるには、御所の水利権を独立して別系統で持つ他はない、という事が明治三〇年代より議論されていく。

七 まとめ

前回と併せてまとめとして、京都の水は誰のものであるのか、そして琵琶湖疏水はその水利構造をいかに変えたのか、について応えたい。まず、近世と近代の水の支配権、水利権をまとめてみると左記の表のようになる。

ここに、水の所有者と管理者、その管理委託者と現場監督、そして利用者の構造がまとめられる。近世までは御所用水筋の小山郷は上賀茂社領である。土地所有が上賀茂社であり、そして水の所有も同社のものであった。小山郷の村民(農民)はその耕作権を持っていた。上賀茂社所有の用水から御所の御庭用水へ分水する取決めがあったが、小山郷村民は水を得て耕作し、その生産高から上賀茂社に年貢を納める為、渇水時の用水確保は必至である。御所側は枯渇した庭園用水(防火用水)の供給要請を上賀茂社になすが、一方で

面」の支配権は明治の上知令、地租改正を経て大きく構造変化をしたにも拘らず、生産現場の「水量」の利用実態は近世と同じく村方が優位に立つ傾向がみえてくる。水は誰のものか、の問いに答えるならば、所有・管理は官有であるが、実態の運用は最大の使用者である村方(小山村)である、といつてよいであろう。それは近代的な土地・水利支配の下で、不法な水の横領事件とみることもできるが、村方では単に彼らが中世以来与えられている米を作る為の慣行水利権を行使しているにすぎない。その慣行は土地・水の支配権が変化しても変わりが無い。

琵琶湖疏水は、その水利構造を変えて、御所への安定供給を目指したが、一方で中世来の農村の有する慣行水利権を認め、むしろ強化補填するものであった。したがって、疏水からは灌漑用水には無償で配給した。村民から見れば、御所も自分たちと同じユーザーの者にすぎなかった。契約十個とはいっても無償であり、その点では村々への灌漑用水と同等の地位に御所もあった。そうした水

利権の慣習の中で、渇水時には特に村方に優先されるべきものだという先例が、水番役をして村方優先の行為に走らせた。つまり、琵琶湖疏水という近代土木工事とともに導入されてきた水の所有権という考え方は、疏水の工事主体と財源、所有(水利権)が京都府で、契約者の宮内省の存在があったとしても、中世以来の慣行水利権が優り、それ故無償であり、渇水時には村方が優先された。

この抜本的解決は、こうした慣行水利権との共存をやめて、御所への専用の用水確保を図る他はない。

早くも明治三二(一八九九)年十一月、宮内省技師木子清敬は御所水道の設計を始める。御所水道は、木子の設計に始まり、田邊朔朗が実地設計をなし(明治四三年内匠寮御用掛。主任は内匠寮頭片山東熊)、折からの琵琶湖第二疏水の開鑿と京都市上水道工事(いわゆる京都市三大事業)にあわせて、御所水道も施工される。結果的に京都市上水道の配水池蹴上とは別に、大日山に専用貯水池を置き、明治四五(一九一三)年四月一日、御所水道の通水が始まる。(了)



### 9 磐船神社

交野市南部にある「天孫降臨の地・岩窟めぐり」で有名な磐船神社。古来より神道家や修験道の行場として知られており、旧天野川を跨ぐように横たわる舟形巨岩「天の磐船」が御神体。旧天野川の溪谷沿い、天野川と旧道磐船街道に挟まれた場所にある神社周辺は、木々に遮られ日中でもやや暗い。旧天野川の下に広がる岩窟内へ入る岩窟めぐりは、年齢等の条件を満たし社務所でサインと入窟料を払えば可能です(ご安全に)。



### 8 星のブランコ

ユニークな名前の「交野吊橋 星のブランコ」は、国道168号に隣接する大阪府民の森「ほしだ園地」内の名物絶景スポット。橋長280m、幅1.2m、最高地上高50mの規模は木床板人道吊り橋としては国内最大級。園内は様々なハイキングコースがあり、駐車場からは木製の森林鉄道風歩道橋からコースを選択しながら吊り橋に行くことができる。吊り橋から山頂の「展望スポット」に到着すると眼下には吊り橋、また西は能勢妙見山から東は比叡山までの山並みが広がっている。



獅子窟寺の修験者たちが修行の場とした、交野市の尺治川にかかる落差約5mの滝(別名:金剛滝)。かつて大和との文化の道であったといわれる、くろんど池へのハイキングコース(月輪街道)の途中約1kmにある。コースから対岸に渡り狭い崖沿いの道を滑らないよう気をつけながら登ると、大岩の間から流れ出る滝に着く。木々が覆い繁る尺治の谷を流れる清らかな水と心地よい音、苔生す岩の緑が調和し癒やされるスポットです。

### 7 月輪の滝

### 6 獅子窟寺

獅子窟寺は、交野市私市の普見山にある国宝薬師如来坐像を祀る高野山真言宗の寺院。聖武天皇の勅命により行基が金剛般若窟の寺号で創建したとされ、本堂裏の獅子が吼える形に似た巨大な岩が寺の名前の由来といわれる。元和元年(1615年)、大坂夏の陣の際に焼き討ちに遭い全山十二院を焼失し、その後再建されたが以前の十分の一にも及ばないという。麓の天田神社から寺へは徒歩で約30分の道程。急勾配の山道に登るには杖が必須です。



交野市星田の「星田の降臨伝説」で知られる小松神社(別名、星田妙見宮)は、数少ない岩座信仰の霊場の一つ。星田妙見川沿いの大鳥居から参道を進み、石段を登りつめた妙見山山頂近くの本殿(拜殿)から後ろを振り返ると、遠く天王山の山並みが一望できる。その拜殿奥には太古の昔から存在するといわれている巨石、織女石が祀られている。「妙見の観桜(交野八景)」として有名な桜のトンネルは、開花時には大鳥居前の星田妙見川の両岸に広がる。

### 5 小松神社(星田妙見宮)



### 1 百済寺跡公園

750(天平勝宝2)年頃に百済の王族の末裔・百済王敬福が建てた百済寺の史跡周辺を整備した、天野川下流部にある枚方市の百済寺跡公園。百済寺跡は日韓文化交流の歴史を顕す貴重な古代寺院跡であるため国の特別史跡に指定されており、建物の基壇、礎石などが復元されている。玉砂利を敷き詰めた公園内は松林の緑が美しく、「百済寺跡の松風」として枚方八景に選ばれている景勝地です。西隣には百済王神などを祀る百済王神社がある。(6月現在、再整備中)



### 2 観音山牽牛石

枚方市南部、香里ヶ丘の高台地の観音山公園内にある、天野川が見下ろせる東端に鎮座する巨石。横に立てられた説明板には『七夕にはこの牽牛と天の川対岸、交野市倉治の機物神社の祭神織女が、天の川の逢合橋でひとときの逢瀬をたのしむと伝えられている』とある。園内には、平成19年に枚方・交野市で開催された「全国七夕サミット」を記念し、牛を連れた牽牛像のモニュメントや歌碑が建てられている。



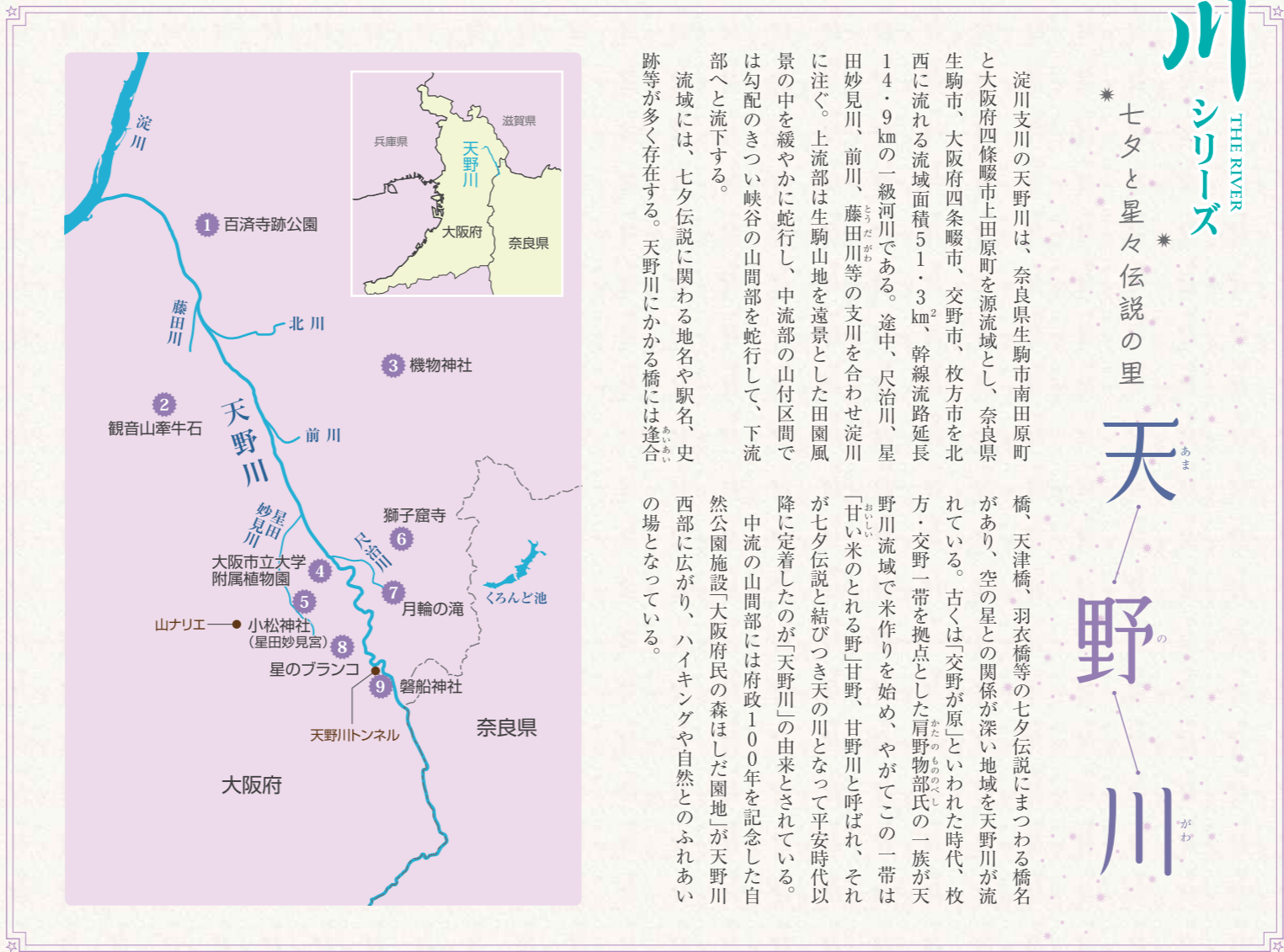
### 3 機物神社

織姫にあたる天棚機比売大神が祭神の交野市倉治にある機物神社。日本における七夕伝説発祥の地とされる交野市と枚方市にかけての「交野が原」でも機物神社がその中心とされている。交野市を代表する大祭、「七夕まつり」が行われる7月6、7日の両日は、色とりどりの笹飾りが境内に所狭しと並び、短冊に願いを託す参拝客で賑わう。飾り付けられた短冊は、祭の後にお願いを託す参拝客で賑わう。飾り付けられた短冊は、祭の後にお願いを託す参拝客で賑わう。飾り付けられた短冊は、祭の後にお願いを託す参拝客で賑わう。



### 4 大阪市立大学附属植物園

1950(昭和25)年、大阪府立大学理工学部附属の研究施設として発足した植物園。植物学の基礎研究の対象として、多くの植物の収集・保存されている。特に日本産樹木の収集に力を注ぎ、野外で生育可能な約450種を植栽し、我が国の代表的な11種類の森の型(樹林型)が復元されている。また学問的に重要な外国産樹木や花木、草本類などの展示もあり、植物園は研究の場であるとともに、自然学習や生涯学習の場として一般にも公開されている。



# 川 シリーズ THE RIVER 天野川

七夕と星々伝説の里

淀川支川の天野川は、奈良県生駒市南田原町と大阪府四條畷市上田原町を源流域とし、奈良県生駒市、大阪府四條畷市、交野市、枚方市を北西に流れる流域面積51.3km<sup>2</sup>、幹線流路延長14.9kmの一級河川である。途中、尺治川、星田妙見川、前川、藤田川等の支川を合わせ淀川に注ぐ。上流部は生駒山地を遠景とした田園風景の中を緩やかに蛇行し、中流部の山付区間では勾配のきつい峡谷の山間部を蛇行して、下流部へと流下する。流域には、七夕伝説に関わる地名や駅名、史跡等が多く存在する。天野川にかかる橋には逢合

橋、天津橋、羽衣橋等の七夕伝説にまつわる橋名があり、空の星との関係が深い地域を天野川が流れている。古くは「交野が原」といわれた時代、枚方・交野一帯を拠点とした肩野物部氏の一族が天野川流域で米作りを始め、やがてこの一帯は「甘い米のとれる野」甘野、甘野川と呼ばれ、それが七夕伝説と結びつき天の川となって平安時代以降に定着したのが「天野川」の由来とされている。中流の山間部には府政100年を記念した自然公園施設「大阪府民の森ほしだ園地」が天野川西部に広がり、ハイキングや自然とのふれあいの場となっている。

天野川の地域ブランド  
七夕・星伝説

七夕伝説の発祥

日本における七夕伝説発祥の地として伝わる交野市、枚方市あたり一帯は、平安時代の頃、「交野ヶ原」と呼ばれ、桓武天皇が交野ヶ原において北極星を祭り、国家の安泰を祈願し、狩猟を楽しんだといわれる。その後、貴族たちの遊獵地と栄え、「古今集」には在原業平が惟喬親王の狩猟の供をした時に『狩り暮し棚機津女に宿借らむ天の川原に我は来にけり』と詠んだ歌が載っており、この頃には既に七夕の伝説が定着していたとされる。天野川を始め、七夕や星に関わる地名が多く生まれたのもこの頃だといわれている。

星祭りの発祥

天野川下流部に架かる橋、鶴橋は、七夕伝説では七夕の夜、鶴（かささぎという鳥）が翼を連ねて橋を架け、二人を逢わせることに由来する。鶴橋以外にも天津橋、逢合橋と七夕まつつわる橋がある。また交野ヶ原一帯には星田、星ヶ丘、中宮（北極星のある場所を意味）、物部氏の祖先神、饒速日命が天上より天の磐船で地上に降臨したという伝説をもつ磐船神社、星田妙見宮（北斗七星を祀

る）・降星山光林寺・星ノ森の三カ所に星が降ったという降星伝説が残されている。

平安から鎌倉時代の歌人は、天野ヶ原を題材にし、天野川を夜空の天の川に見立てた七夕伝説の和歌、鷹狩りや桜見物の和歌などがたくさん詠まれている。

日本全国、七夕祭りが盛んな地域は数多くあるが、平安の昔から交野ヶ原のように地域全体が七夕と星・天体に関連した地名や伝承に彩られている地域は他所にないといわれる。

天の川七夕まつり

平成17年から始まり、毎年恒例となった「私市水辺プラザ」一帯で開催される市民による「天の川七夕まつり」。主なイベント会場は、京阪私市駅前、大阪市立大学理学部附属植物園、私市水辺プラザ、星の里いわふね。各会場では、大人から子供まで夏祭りの定番「模擬店」が楽しめるほか、星の里いわふねでは人形劇やコンサートなどの催しもある。各会場間の動線となっている天野川沿いの「散策路」には、大笹飾り、あんどん、ガラスランタンなどが見事に飾り付けられ七夕まつりを盛り上げる。

ありがとう  
山ナリエ

交野の冬の風物詩として交野市南西部の高台に広がる星田山手地区の住宅街で開催されてきたイルミネーションイベント「山ナリエ」が昨年12月末、20周年を最後に終了した。

「街を明るくする」試みとして始まった山ナリエは、星田山手の「山」と、神戸ルミナリエを掛けて名付けられた。毎年多くの人が訪れたイベントであったが、20周年という節目、実行委員の高齢化による飾り付け等が困難になったことが終了の理由だという。

イルミネーションイベントは、公共機関や企業等からの協賛による開催や、アミューズメント施設での開催は全国数多くあるが、山ナリエは住民の方々だけで運営されてきた。



住宅街に広がる趣向が凝らされたイルミネーション。90歳のこの主人宅の庭にはウルトラマンをはじめ怪獣のフィギュアが陳列ケースに数え切れないほど収集されており、「人形之館」の家として有名であった。



★の下の数字は開催回数。最後となった昨年は「20」と、哀愁がただよう「さようなら」の文字が上側の住宅地に繋がる長い階段横の斜面に浮かびあがっていた。

この最たるは、駐車場と住宅街の出入口にある照明に照らされた実行委員手作りの「散策マップ」。白い模造紙に黒のマジックインクで描いた道路の線と、イルミネーションで飾られた家の位置を道路線の上下左右に配置した赤い丸いシールを貼って示した散策マップは手作り感が満載であった。昨年の散策マップには約70の赤いシールが貼ってあったが、多い年は約100軒近くもあったという。

1ヶ月もの寒い時期の開催。駐車場への誘導や住宅地内の交通整理にあたる高齢となった方々の苦労は大変であったと想像する。駐車場担当の「いらつしやい。楽しんでくださいね」、また「ありがとうございました」とのおもてなしの声かけがもう聞けないのは残念だ。



「天の川七夕まつり」水辺プラザ一帯に灯るイルミネーション(H28.7.30)

祭のメインは日没後の19時から点灯される「灯りの点灯」。天野川と尺治川の河川敷では、星などを模したランタンが点灯式の時間に合わせセットされる。18時30分からのオープニングセレモニーに続く点灯式。空に星が綺麗に見える頃には、水辺プラザ会場一帯の川沿いは灯されたオレンジ色の明かりが浮かび上がり、会場を訪れた人の心を魅了する。

ふるさと名物応援宣言

交野市と枚方市は連携し、中小企業地域資源活用促進法に基づく「ふるさと名物応援宣言」を行い、両市を流れる天の川沿いに点在する七夕や星にちなんだ名所などの地域資源を「七夕伝説と天の川ツーリズム」として平成28年7月2日、全国に発信。枚方市駅では交野・枚方両市や

京阪電車などによる「天の川ツーリズム」オープニングイベントがあり、交野に向けてラッピング電車が発売するなど、枚方市駅・天野川周辺で様々な催しが盛大に開催された。

交野・枚方を日本遺産へ

交野ヶ原と呼ばれた交野・枚方一帯を「日本遺産（地域の歴史的魅力や特色を通じて我が国の文化・伝統を語るストーリー）」に登録する活動が市民主導で行われている。イベントを通じて市民への情報発信、また今年に入ってから交野市長と枚方市長にそれぞれに要望書が提出されるなど、日本遺産への登録の機運が高まっている。

「七夕月間」は、交野・枚方両市の各所で開催される七夕行事に是非、お出かけ下さい。



私市駅で出発を待つラッピング電車キキ&ララトレイン(右：H28.7.30)

天野川  
トンネル

一般国道168号を天野川溪谷に沿って磐船街道を交野市側から奈良県生駒市方面に走行し、ヘアピンカーブを上り短いトンネルを抜けた右側に、否が応でもドライバーの目に飛び込むトンネル放水路と流れ落ちる滝。初めて見るドライパーにとって、この異様な「天野川トンネル」の光景に驚愕した人も多いのでは。



天野川トンネルから流れ落ちる本流。左岸(写真右側)からは磐船神社前の旧河道に導水されている僅かな水が合流している。

この付近は金剛生駒国定公園に指定されており、山間部の急峻な地形で、巨石群を主体とした渓谷は名勝「磐船峡」がある。トンネル完成以前のこのあたりは、天野川、道路ともに急峻、狭隘箇所、流下能力不足のため天野川(旧河道)沿いの磐船神社では度々浸水被害の発生や、旧道では離合渋滞が起こっていた。これらの解消策は、磐船神社の東側に河川、道路ともバイパス化し、天野川はトンネル放水路へ、また道路はトンネルを掘るといふもの。この事業で、景観、環境に最大限配慮し経済性や施工性も考慮したトンネル



道路と河川の2つのトンネルが南北方向に並行している天野川トンネルの上流側(呑口部)。写真中央の上部に道路改良工事で新たに完成した新磐船トンネル(国道168号バイパス)がみえる。

# 世界の水

一般社団法人 近畿建設協会・技術顧問  
元大阪産業大学教授  
なかの まさひろ  
中野 雅弘

## 水辺空間を生かした都市再生の事例 —ヨーロッパ(その2)—



中世の町の雰囲気を残す中心部



運河沿いの建物



高さ88メートルの鐘楼塔

鐘楼の上からみた「屋根のない美術館」



鐘楼のカリヨン



ベギン会修道院の庭



運河畔の芝生には白鳥が集う



### はじめに

今回は、ヨーロッパ大陸の国々の紹介一回目としてベネルクス諸国の内、オランダを紹介しました。

今回は、その南に隣接したベルギーのブリュージュを紹介しします。ブリュージュは、一度衰退した中世の都市が再生され、今やヨーロッパでも有数の観光地として有名になった町です。

### 1. ブリュージュの再生と水辺空間

この町はかつて北海とつながり、中世フランドル地方の中心的な都市

#### (2) 高さ88メートルの鐘楼と「屋根のない美術館」

町の中心にあるマルクト広場には、町のシンボルである13世紀から15世紀にかけて建設された鐘楼がある。塔の高さは88メートルあり、366段の螺旋階段を登ると、頂上からは中世の町を一望できる。商業都市として栄えた時代の町並みが、ほぼ完璧に保全・復元された景色は「屋根のない美術館」と讃えられている。鐘楼にあるカリヨン(複数の鐘を組み合わせて旋律を演奏できるようにしたもの)は、大きさの異なる47個の鐘で構成されており、15分毎に美しい音色を奏でている。その音色は、温かみがあり心地良い。

#### (3) ベギン会修道院

市街地を通り抜けると、1245年に設立されたベギン会修道院を訪れることが出来る。ここは当時、尼僧とは違い、あくまで自立的な生活を営む女性たちのための共同生活の場であった。

であった。しかし15世紀以降、運河に土砂が堆積し、内陸の水の都としての機能が失われ衰退した。19世紀になって運河が再生され、ブリュージュを舞台とした小説「死都ブリュージュ」がフランスのフィガロ紙に掲載されたこともあり、中世の都市を保存している町として一躍観光地となった。都市の再開発をするだけでなく、歴史的な建物を保存し、中世の町を再現させた町は、「屋根のない美術館」ともいわれている。

### 2. 三つの世界遺産とブリュージュ

ブリュージュは、歴史的な建物と町並みを保全・復元して舟運を復活させ、経済の活力を取り戻した町である。町には運河が縦横に張り巡らされ「北のベネチア」ともいわれる。

町の旧市街には「ブリュージュ歴史地区」、他の町にあるものを包括した「ベルギーとフランスの鐘楼群(ブリュージュ鐘楼)」と「フランドル地方のベギン会修道院群(ブリュージュのベギン会修道院)」の3つの世界遺産がある。

#### (1) ブリュージュ歴史地区

マルクト広場を中心としたブリュージュ歴史地区は、他のヨーロッパのクルーズ船発着場がいくつかあり、観光客で賑わっている。クルーズ船はあまり大きくないため乗っている目線が低く、地上にいる岸辺の鳥などにも親近感が生まれる。歴史地区を離れて、鉄道に乗るためブリュージュ駅に戻る途中に、旧市街を取り囲む運河を跨ぐ橋がある。

#### (4) クルーズ船で観光が復活

ブリュージュの中心地には観光用のクルーズ船発着場がいくつかあり、観光客で賑わっている。クルーズ船はあまり大きくないため乗っている目線が低く、地上にいる岸辺の鳥などにも親近感が生まれる。歴史地区を離れて、鉄道に乗るためブリュージュ駅に戻る途中に、旧市街を取り囲む運河を跨ぐ橋がある。



クルーズ船の発着場



運河を巡るクルーズ船



運河を望むレストラン



歴史地区の中心、マルクト広場



現代的なデザインの橋

旧市街の雰囲気と趣きの異なる、現代的なデザインの真紅の橋である。古いものを保全しつつ現代的なものも取り入れる、人々の気概が感じられ、興味深い。

町同様に以前の繁栄を偲ばせる豪商の建物や、歴史的建造物が取り囲んでいる。広場には屋外のオープンカフェやレストランが並び、市民はゆったりとした時間の流れをくつろいだ雰囲気を楽しんでいる。また、周りの運河近くでは、水辺が見えるレストランで多くの観光客などが楽しんでいる。この歴史地区には、有名なベルギーチョコレートのお店も多くあり、購入する観光客も多い。

### おわりに

前回紹介したオランダは、16世紀から17世紀にかけて繁栄しました。今回紹介したベルギーのブリュージュも一時繁栄したものの、その後衰退を経験しています。しかしその後、古い建物やインフラを保存しつつ、再開発を成し遂げて現在のわれわれに、落ち着いた佇まいを提供してくれています。我が国もこれからは、成熟した国として、目先の繁栄のみにとらわれることなく、後世に誇れる遺産(レガシー)を少しでも残したいものです。

泉大橋は、京都府木津川市の国道24号兼国道163号線上にある木津川に架かる橋。1951(昭和26)年に架けられた現在の橋は、長さ383.6mのカンチレバー(ゲルバー)式トラス橋で「日本百名橋」に選定されている。

740(天平12)年、現在の橋の少し下流に奈良時代の僧行基が造営した「泉橋」が泉大橋の始まり。平城京から一時期遷都された恭仁京の建設時、木津川を越えて新京を造るための何カ所かに渡された橋の一つで、その後は幾度かの流失、架橋を繰り返し現在に至っている。泉大橋直ぐ下流には、木津川を挟んで行基ゆかりの泉橋寺(北岸)と大智寺(南岸)がある。

古くから「木津」は交通の重要な拠点。現在、緊急時の代替ルートとして交通が集中している泉大橋の約1km上流には、JR木津駅の東側で開発が進む新市街地「木津中央地区」と国道163号とを接続する新しい橋が建設中。宅地開発や企業誘致などを促進させ、木津川市の計画的なまちづくりの支援と国道163号の慢性的な渋滞解消がねらいという。



車道西側の歩行者・自転車専用橋は、昭和49年に架橋。南詰(写真手前)の木津川堤防は、嵐山(渡月橋右岸)を起点とした45kmの「京都八幡木津自転車道(桂川サイクリングロード)」の終点となっている。要所にルートマップなどがあり、嵐山まで迷わずサイクリングできる。

## 泉大橋



泉大橋は、奈良と京都を結ぶ主要道路の国道24号と、橋北側の交差点から三重県伊賀市へ東進する国道163号が重複する、特殊区間である。この約200m上流には、JR奈良線のトラス橋が木津川を横断している。

## 赤川鉄橋



改良工事中の淀川橋梁(平成29年1月)。橋上を覗くと、線路は上流側が敷設され、下流側は敷設前であった。閉鎖前は、左岸側にある高校の運動部員がランニングコースとして利用したり、「淀川花火大会」の特等席だったという。

赤川鉄橋は、大阪市東淀川区と都島区・旭区を結ぶ淀川に架かる全長614mのJR西日本城東貨物線の鉄道橋(トラス橋)。正式名称は城東貨物線淀川橋梁(よどがわなはし)といい、1929(昭和4)年に架橋された。当初から複線幅で建設されたが、当時の輸送量に鑑みて下流側のみ線路が敷設され単線で運行されていた。上流側の余ったスペースは大阪市が借り受け、市道扱いの「赤川仮橋」と呼ばれる木造の歩道部分を設置し、2013(平成25)年10月31日まで鉄道道路併用橋として使用された。

赤川仮橋は地域住民の生活道路となっていたが、おおさか東線延伸部(北区間:新大阪-放出間)の2019(平成31)年春開業に向けた城東貨物線の複線化工事に伴い、人道橋「赤川鉄橋」は84年の歴史に幕を下ろした。



【左】木造から鉄板に変わった歩道部を自転車で渡る男性(平成23年4月)。

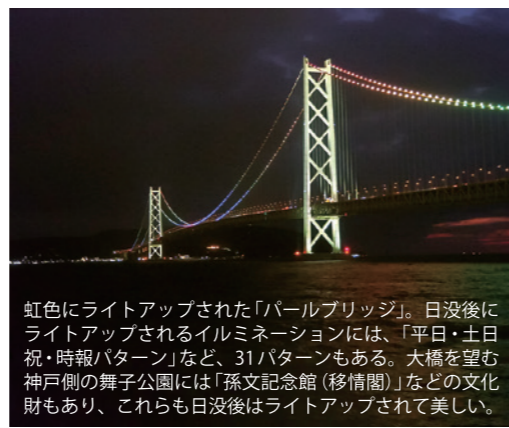
【右】閉鎖予告の案内看板。赤川鉄橋は、国が実施している水質調査地点であったが、閉鎖後は、約1km上流の「菅原城北大橋」に変更された。

## 明石海峡大橋

本州四国連絡橋の一つ「神戸・鳴門ルート」の明石海峡に架かる、兵庫県神戸市垂水区と淡路市岩屋とを結ぶ世界最長の吊り橋(全長3,911m、中央支間1,991m)。1988年(昭和63)5月に工事着工し、約10年の歳月を経て1998(平成10)年4月に開通した。メインケーブル架設中の平成7年1月に発生した兵庫県南部地震による地盤のずれのため、全長と支間長が計画よりも1m伸張した。そびえ立つ2基の主塔の高さは海面上298.3m、大阪「あべのハルカス」の300mに匹敵する高さ。主塔への塔頂ツアー「ブリッジワールド」は、4月から11月に実施されている(要予約)。

神戸市側の橋のたもとは、兵庫県立都市公園「舞子公園」として整備されて地下駐車場も設けられ、多くの観光客が訪れている。公園内には、厳しい建設条件などを様々な技術開発と創意工夫により克服し完成した明石海峡大橋のすべてがわかるサイエンスミュージアム「橋の科学館」があり、世界一の橋梁技術を知ることができる。

スケールの大きさに圧倒されるコンクリート躯体は、ケーブルを繋ぎとめる地上高約40mの神戸側のアンカレイジ。アンカレイジから昇降し明石海峡に突出した回遊式遊歩道「舞子海上プロムナード」には、透明ガラスに渡された丸木橋を歩く「海上47mの丸木橋」があり、迫力満点です。



紅色にライトアップされた「パールブリッジ」。日没後にライトアップされるイルミネーションには、「平日・土日祝・時報パターン」など、31パターンもある。大橋を望む神戸側の舞子公園には「孫文記念館(移情閣)」などの文化財もあり、これらも日没後はライトアップされて美しい。



## 上津屋橋(流れ橋)

5本の杭で支える橋脚は、両端2本がこれまで使用していた松杭、中央3本がコンクリート製(L=12m)になった。このコンクリート杭は両側の松杭に合わせた塗装が施されているので、時代劇映画の撮影には支障ないのだろう。

流れ橋兩岸の河川敷には茶畑が広がる。平成27年、日本遺産の第1号として『日本茶800年の歴史散歩』～京都・山城が認定された(「お茶の京都」エリアの山城地域12市町村)。また、「高品質てん茶の産地・八幡市」～流れ橋周辺に広がる浜茶の景観～としても、京都府景観資産に登録されている。

上津屋橋は、1953(昭和28)年3月、木津川に架設された京都府久世郡久御山町と八幡市を結ぶ木造橋。木橋としては国内最長級(全長356.5m、幅3.3m)で、川が増水すると橋桁が流される構造であることから流れ橋と呼ばれ、時代劇のロケ地としても有名だ。

架設後60余年以上が経過した上津屋橋。架設直後の昭和28年8月豪雨や伊勢湾台風など、これまで21回も流出。現在の橋は、2014(平成26)年8月流出後にリニューアルされたもので、2016(平成28)年3月に開通した。今回の復旧にあたっては、有識者による上津屋橋(流れ橋)あり方検討委員会をはじめ、多くの方々の意見を得て、橋面の嵩上げ(75cm)、下部工の一部コンクリート構造化、橋脚間の拡大を行い、流れにくい構造に変更された。

八幡市側の『流れ橋交流プラザ「四季彩館」』の研修棟展示ロビーには、「日本一長い木橋の流れ橋流れ流され六十年経しかな(平成24年12月)」と、架設時から現在も流れ橋を見守っている地元の女性が詠まれた短歌が掲げられている。

琵琶湖唯一の流出河川である瀬田川に架かる鹿跳橋。このあたりはゴツゴツした岩がむき出す瀬田川景勝地のひとつであり、水が温む川遊びのシーズンは、立木観音の北側あたりから鹿跳橋までの渓流部でカヌーやラフティングなどが楽しめる。



鹿跳橋は、滋賀県大津市から三重県北牟婁郡紀北町に至る、一般国道422号の瀬田川に架かる橋。1895(明治28)年5月に初代の木橋が架かり、1964(昭和39)年、天ヶ瀬ダム建設による水没の補償として現在のコンクリート橋となった。名前の由来は、815(弘仁6)年、弘法大師が対岸の立木山に霊木を発見したが流れが激しくて渡れないでいると、白い鹿が現れて背中に乗せて岩を跳んでくれた伝説からだという。この厄除けで有名な立木観音へは、鹿跳橋から国道422号を北に少し進み、瀬田川沿い駐車場の向かいの石段から約800段登ると立木山境内に着く。

7世紀末には、筏を組んだ多くの木材が田上(大津市)の津から瀬田川を下って藤原宮へ運ばれたという。鹿跳橋付近は鹿跳溪谷と呼ばれ、川幅が狭く流れが急で木材の運漕の難所であるが、それを乗り越え、8世紀の奈良時代でも東大寺などの建立のため、良質の松や杉が勢多川(瀬田川)から巨椋湖を経て、奈良方が泉乃河(木津川)を遡って泉乃津で引き揚げられ、ここから5km余の陸路を登坂して奈良平城京に運ばれた。



普段は川面の奇岩が美しい渓流部。しかし豪雨時などは、琵琶湖水位調整のため鹿跳橋上流の南郷にある「瀬田川洗堰」が全開放流した際、瀬田川洗堰下流は水位が著しく増し、川幅が狭い鹿跳橋周辺は荒々しい姿に変貌する。

# 近畿の水

## 名橋

第四回

川、海、谷を越え、人物などを繋ぐ橋。普段呼ばれている橋名のほか、用途・構造・材料別を組み合わせた種類の呼称は、架橋された時代背景や周辺環境などが想像でき、橋マニアにとっては大変興味深い。現在の橋づくりは、架橋技術の進歩による主材料の高性能化、架設工法や構造解析技術の進歩による新構造形式が実現可能となり、また長大化している。訪れたときは構造の他、橋名版や親柱、由来碑などにも目を向けると、橋紀行の謎解き散歩が愉しめる。今回は、時代劇やドラマの撮影ロケ地として有名な「流れ橋」などを訪ねてきました。



# 水辺のミュージズ

パルテノン神殿やタージ・マハルなどと並んで、英誌『ザ・タイムズ』の「世界を代表する20の建築物」に選ばれた梅田スカイビルに、昨年末、「絹谷幸二 天空美術館」が開館したと聞き、さっそく出かけた。安倍首相の「絹谷先生、おめでとうございます。」で始まるメッセージビデオの映像がエントランス・ロビーに置かれていたのに驚いたが、既に自



淀川越しに望む梅田スカイビル

分の名を冠した「絹谷幸二賞」まであるほど功成り名遂げた芸術家ならではであろう（絹谷画伯とは奈良県のマスコットキャラクター「せんとくん」を選考した審査員として同席した思い出が私にはある）。館内から望む淀川河口部と明石海峡に沈む夕陽は絶景と呼ぶにふさわしい。子供の頃、電車に乗ると、車窓に見える淀川の川幅と水量に圧倒される思いを抱いたことを覚えているが、この大きな川が、昔からあった天然の川ではなく、明治末期に出来た人工の川、すなわち新淀川と知ったときは正直驚いた。

## 新生フェスティバル

〈水都・大阪〉を実感させるところといえば、大川と呼ばれる旧淀川に沿った一帯、ことにアクアライナー（水上バス）が運行する中之島から天満橋、桜ノ宮にかけてであ

建設にともない2013年に生まれ変わった現在のホールにも受け継がれた。クラシック用の音響反射板は日本最大級、可動式で客席にまんべんなく音を届け、残響は空席時2・2秒、満席時1・8秒。幕間のロビーでは眼下に堂島川や土佐堀川の水面がきらめくのも魅力的だ。

この舞台で、世界の音楽家たちの演奏と息づかいをホールに刻んできたのが、春の大阪国際フェスティバルである。第1回は昭和33（1958）4月、ニューヨーク・シティ・パレエ団で幕を開け、鉄のカーテンの彼方からレニングレード・フィルを招いた。翌年はストラヴィンスキーが自作「火の鳥」をみずから指揮、ギターの巨匠セゴビアも来阪する。昭和41（1966）年にはカラヤン指揮ベルリンフィルが初登場。…という具合に、日本人が海外の音楽家とじかに触れる機会など首都圏でもほとんどなかった頃から国内外の著名な指揮者や楽団が演奏を披露してきた。なかでも語り草となったパイロイト・ワーグナー・フェスティバルの海外初公演（1967年）では、本場ドイツでも実現しが

たいような豪華な顔ぶれによる「ワルキューレ」「トリスタンとイゾルデ」がワグネリアン（ワーグナー作品の愛好者）を熱狂させた。平成20（2008）年にはザルツブルグ音楽祭を初めて日本に招聘。昨年は指揮者ネビル・マリナーが最後の日本公演をうち、今春4月に開幕した第55回大阪国際フェスティバルでは、バーンスタイン作曲の「ミサ」（新制作）が7月にお目見えする。大阪フィルハーモニーに加え、合唱団やバレエダンサーら総勢約2000人が出演する。



土佐堀川から眺めた中之島フェスティバルタワー



「中之島フェスティバルタワー」ウエストの玄関

朝日新聞社が進める大阪中之島プロジェクトで生まれた「中之島フェスティバルタワー」ウエスト4階には、来春、「中之島香雪美術館」が開館する。朝日新聞の創業者・村山龍平（1850～1933）が愛した〈市中の山居〉を新たに創造することが新美術館のテーマとなる。繁華な現代の市中に草庵を営み、静寂な境地を味わいつつ美術品と向き合うというのは、かつて大阪船場の旦那衆が愛したライフスタイルでもある。阪急沿線・御影（神戸市東灘区）にある村山邸内の茶室「玄庵」（龍平が暮らした洋館や書院棟とともに国指定重要文化財）を館内に再現（玄庵「香雪」は龍平の号）。

## 中之島香雪美術館

ろ。中之島は22本の橋によって北の堂島川、南の土佐堀川の対岸とつながるが、土佐堀川に面して瀟洒なカフェテラスを「川床」として備えたビルも少なくない。ヨーロッパの人々は、文化施設が集積する中之島界隈に来ると、パリのシテ塔のよう



浪華橋乃繁栄見立相撲



水辺カフェ



- 1 絹谷幸二 天空美術館
  - 2 中之島香雪美術館
  - 3 大阪市立東洋陶磁美術館
  - 4 国立国際美術館
  - 5 藤田美術館
  - 6 大阪文化館・天保山
  - 7 南蛮文化館
- ※本文中で取り上げている順

美術館地図

1棟まるごと建造した茶室は、茅葺き屋根、入り母屋造りで、茶室の内部も鑑賞できる。

香雪美術館（本館）は、村山龍平の収集品をもとに昭和48（1973）年に開館した。日本・東洋の古い時代の絵画、書跡、仏教美術、茶道具、武具などを所蔵し、重要文化財が19点ある。中之島香雪美術館では、この村山コレクションを広く紹介するとともに、所蔵品と関連する企画展を開いていくことになる。展示ケースのガラスには光の反射を抑えた国内最高レベルの超高透過ガラスを採用し、鑑賞者の姿がガラスに映り込まず、作品がクリアに見えるよう工夫された。施設は既に完成しているが、貴重な文化財を傷めず安全に展示するには、温湿度の管理に加え、新築時に建材やクロスからわずかに発生するアンモニア、酢酸などのガスを枯らす必要があるため、開館まで1年間かけて空気環境を安定させていくという。

タワーはイースト・ウエストともに河川水を利用した地域冷暖房（地冷）を採用している。空調に使う水の温度を変えるのに、年間を通じ温

評論家・文化プロデューサー

河内厚郎







藤田美術館庭園 蔵を改造した展示室 多宝塔



毛馬桜之宮公園 藤田邸跡

かつて漫画家の手塚治虫が学んだ大阪大学のキャンパスは中之島にあったが、現在その一部は草の生い茂る空き地となっており、立て看板には「大阪新美術館建設予定地」と書かれている。昔屋の実業家、故・山本発次郎が、近代大阪の生んだ画家、佐伯祐三の絵画コレクションを



上空から見た中之島の一部【写真提供：大阪府西大阪治水事務所】



堂島川越しに望む大阪市立東洋陶磁美術館



大阪市中央公会堂

度変化が少ない河川の水を使用しているのだ。堂島川と土佐堀川に挟まれた立地をいかし、堂島川から取水し、地下で熱交換を行って温水や冷水を作り、使い終わった水は土佐堀川に流すことで、大気中に熱を排出せず、消費エネルギーも減らす仕組みだ。

水を河川に戻すことで生態系に影響を与えないよう、熱交換のための機器では薬品を使わず、汚れなどを除去する仕組みも備えている。細管がつまらないようにする濾過装置や細管の汚れを取るスポンジのボール等を使っている。

中之島から上流へさかのぼった桜の宮では、藤田美術館の「ザ・コレクション」展が開かれていた。3月から4月までの展観では「曜変天目茶碗」をはじめとする国宝7点に重

藤田美術館と
毛馬桜之宮公園

大阪市に寄贈したことが契機となり、昭和58（1983）年に市制百周年記念事業として構想してから、美術館建設に向けて大阪市が購入した作品は1016点、総額約153億円。加えて3742点の寄贈を受けたものの、建設地の取得交渉や埋蔵文化財（近世諸藩の蔵屋敷など）の調査に歳月を費やした上で計画の見直しを迫られ、実に30年以上を経た2014年9月、ようやく2021年度の開館をめざす方針が決まった。新美術館の完成が待たれるが、そんな新美術館建設準備室の所蔵品の中に、岸田劉生のパトロンとして知られた芝川照吉のコレクションがあった。大阪市に寄託されていた芝川コレクションの一部がいつのまにか京都の国立近代美術館の所蔵となっているのはどうしたことか。

### 美術館島へと進化する中之島

大正期の名建築で知られる中央公会堂では、日本テレマン協会によるバロック音楽のコンサートが定期的に行われて、人気を集めている。

その向かい側、堂島川に沿って建つ大阪市立東洋陶磁美術館の「台北国立故宮博物院―北宋汝窯青磁水仙盆」展（昨年12月10日～3月26日）に出品された「水仙盆」と呼ばれる青磁6点は、北宋時代の11世紀末～12世紀初期に「汝窯」という宮廷の窯で作られた5点と、うち一つを手本に清の皇帝が18世紀前半に作らせた1点。どれも天青色（雨がりにのぞく淡い青空の色）で、釉薬の薄くなる器の端にピンクの光沢が見えるのは瑤瑤を釉薬に混ぜたからとされており、至宝中の至宝とされる「青磁無紋水仙盆」は、釉薬にひびが殆んどない奇跡的な仕上がりだ。世界最高峰の6点が見られるというので、館の玄関には長蛇の列が出来た（会期86日間の入場者数は4万6259人）。

国立国際美術館が千里から中之島に文9点、5月から6月11日までの公開では「玄奘三蔵絵」など国宝4点、重文11点が披露された。大川沿いで生まれ育った俳人・画家、与謝蕪村の「猿鹿図」も所蔵しているが（毛馬の蕪村生家跡は水没）、蕪村の絵は池田の逸翁美術館のほうに多く取められている。

明治期に関西経済界の重鎮として活躍した藤田伝三郎が大川沿いに構えた邸宅は第二次大戦時の空襲で焼失、残った蔵が美術品を守って藤田美術館となった。平成12（2000）年からは庭園（梅園梅叟・作）の学術調査が行われ、急峻な築山や高い滝、流れなどで構成された起伏に富む庭園と判明した。これを復元修復し、周辺部分は対照的におおらかな景観を持つ新庭として新たに整備することで、明治期の名園は都市公園の一部としてよみがえったのである。整備後、大阪市が庭園遺構部分を中心に指定文化財（名勝）とした「毛馬桜之宮公園藤田邸跡」は、隣接する太閤園や市長公館庭園などと共に緑豊かな水辺を形成している。（藤田美術館は6月12日から建て替えのため休館。2020年のリニューアル



国立国際美術館と大阪市立科学館

移ってきたのは平成16（2004）年。地下に埋設する独特な構造となっているが、自然光をふんだんに採り入れ、明るい空間を現出している。

7月18日～10月15日、ブリュッゲルの「パベルの塔」（1568年頃）はじめ、オランダ・ロッテルダムのボイマンス・ファン・ペーニンゲン美術館が所蔵する絵画約90点が公開される。「パベルの塔」の来日は24年ぶり、関西では初展示となる。15～16世紀の奇想の画家ヒエロニムス・ボスの「放浪者（行人）」は初来日で、本来は門外不出の至宝がそろうことになる。

大川をくだった河口部では、安藤忠雄氏の設計した大阪文化館・天保山（前・サントロリーミュージアム）では「藤城清治 光の楽園展」を5月28日まで開催。本展のため天保山をテーマにした『空と楽園』等の新作も生まれた。93歳を迎えて創作活動旺盛な藤城清治の「影絵」は、類を見ない手法と表現で見る者を物語世界へと誘いながらくれた。

冒頭に記した梅田スカイビルのすぐ北に、近世初期の南蛮美術を集めた「南蛮文化館」（大阪市北区中津六丁目）があることを付け加えておこう。「南蛮屏風（重文）」や高山右近の書状などを所蔵し、5月と11月の2ヶ月間のみ公開されている。



大阪文化館・天保山

# 昭和28年8月 南山城大水害 (Ⅱ)

工学博士 **宮井 宏** みやい ひろし

1. **昭和28年8月14日、15日の雨**

昭和28年8月14日、15日の総雨量を示すと図-1のようになります。250mm以上の強雨域が京都府綴喜郡の中、南部から相楽郡を経て東に及び、三重県阿山郡、滋賀県甲賀郡の東部に達しており、相楽郡湯船村(和東川上流)では400mm以上の猛烈な雨となっています。

また、3時間ごとの雨量からその最大時間帯の雨量分布を示すと図-2のようになります。15日0時から3時にかけて強雨域がやはり綴喜郡南部から相楽郡東方に及び、湯船村では200mm以上の強雨となっています。

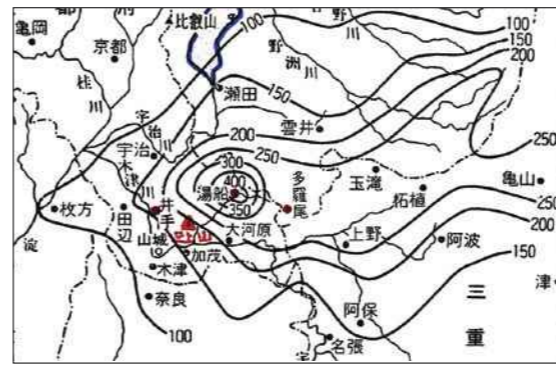


図-1 昭和28年8月14～15日の総雨量分布 (mm)

午前3時をやや過ぎた午前4時頃、この強雨に耐えかねてか玉川上流の大正池、二ノ谷池がほぼ同時に決壊し、激流が玉川下流の井手町を襲い死者105、行方不明1の大災害が発生しました。

図-1の強雨域を水源とする河川は、殆どが風化花崗岩地帯を流下してくるため、流送土砂量が多く、木津川河谷平野に出たところから木津川に合流するまでの間が天井川となつていきます。天井川が破壊されると、その氾濫水と土石流による破壊力は極めて大きく、被害も大きくなります。すから特に注意が必要です。

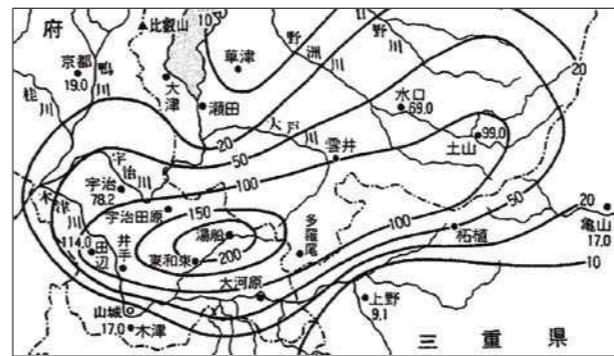


図-2 昭和28年8月15日0時～3時の雨量分布 (mm)

## 2. 木津川8支川の特徴

昭和28年8月15日に南山城大水害を引き起こした河川としては、木津川に東の山地から流下して来る8支川【長谷川、青谷川(城陽市)、南谷川、玉川(井手町)、湊川、天神川、不動川、鳴子川(山城町)】と、その他北から南へと流下して来る和東川などがあり、あまりにも数が多いので、本文では上記8支川の現在の河川改修状況と28年8月の玉川決壊による井手町の惨状についてのみ詳しく説明させていただきます。

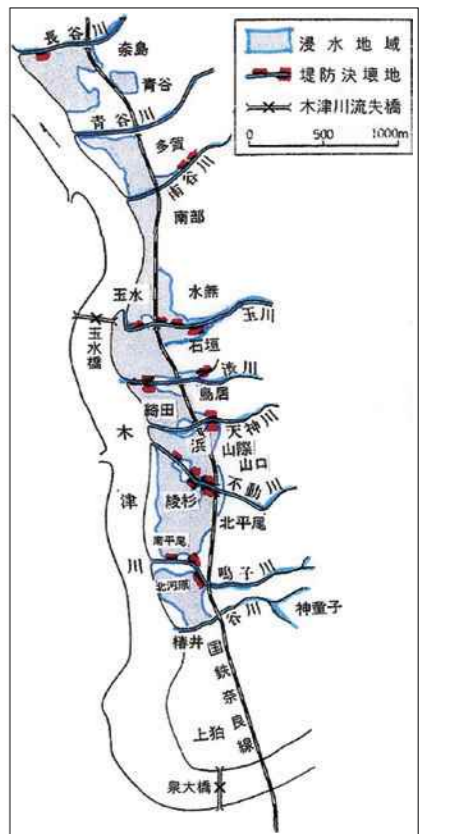


図-3 木津川右岸流入8支川の破堤・氾濫状況

から天井川が発達していきますから、大雨が降ると堤防の決壊、氾濫がこの天井川の区間で生じることになります。図-3を見るとこのことがよく分かります。

## 3. 写真で見える8支川の現況

8支川は何れも天井川で、その流路は東から西へと向き、木津川へと合流していきます。一方、JR奈良線(明治29年開通、単線)や国道24号、府道など主要な道路は南北に通じていますから川と鉄道、川と道路は必然的に直角に交わることとなります。ところがその交差点で川が上を通るか、下を通るかは、天井川の場合には色々なケースがあり、何故そうなるのかを地図や写真を見ながら考えてみるのもまた一興です。



奈良線を跨ぐ天神川水路橋



天神川溪谷出口を扼する砂防堰堤



国道24号下を潜る天神川



天神川水路橋を潜る奈良線

天神川



国道24号を跨ぐ長谷川水路橋



奈良線を跨ぐ長谷川水路橋

長谷川



奈良線の上を流れる青谷川



青谷川の下を潜る奈良線

青谷川



南谷川を高架で渡る奈良線



渓谷を出て丘陵地を下する南谷川

南谷川



玉川溪谷出口を扼する砂防堰堤



(新)大正池堰堤



奈良線の上を跨ぐ玉川水路橋



玉川水路橋

玉川



天井川(山城町)より右岸を見る



奈良線と府道を跨ぐ湊川水路橋



天井川(湊川)より左岸を見る



国道24号を跨ぐ湊川水路橋

湊川



不動川溪谷出口を扼する砂防堰堤



不動川上流のテレーグ堰堤(No.23)



不動川の下を潜る奈良線



不動川堤防から見下す民家



不動川を潜る通学路



不動川水路橋を潜る府道

不動川



鳴子川左岸堤防から民家を見下す



天井川(鳴子川)を渡る奈良線



天井川(鳴子川)始まる

鳴子川

#### 4. 玉川の決壊による井出町の被災状況

図14は、「南山城水害誌」による井手町の被災状況図です。井手町の

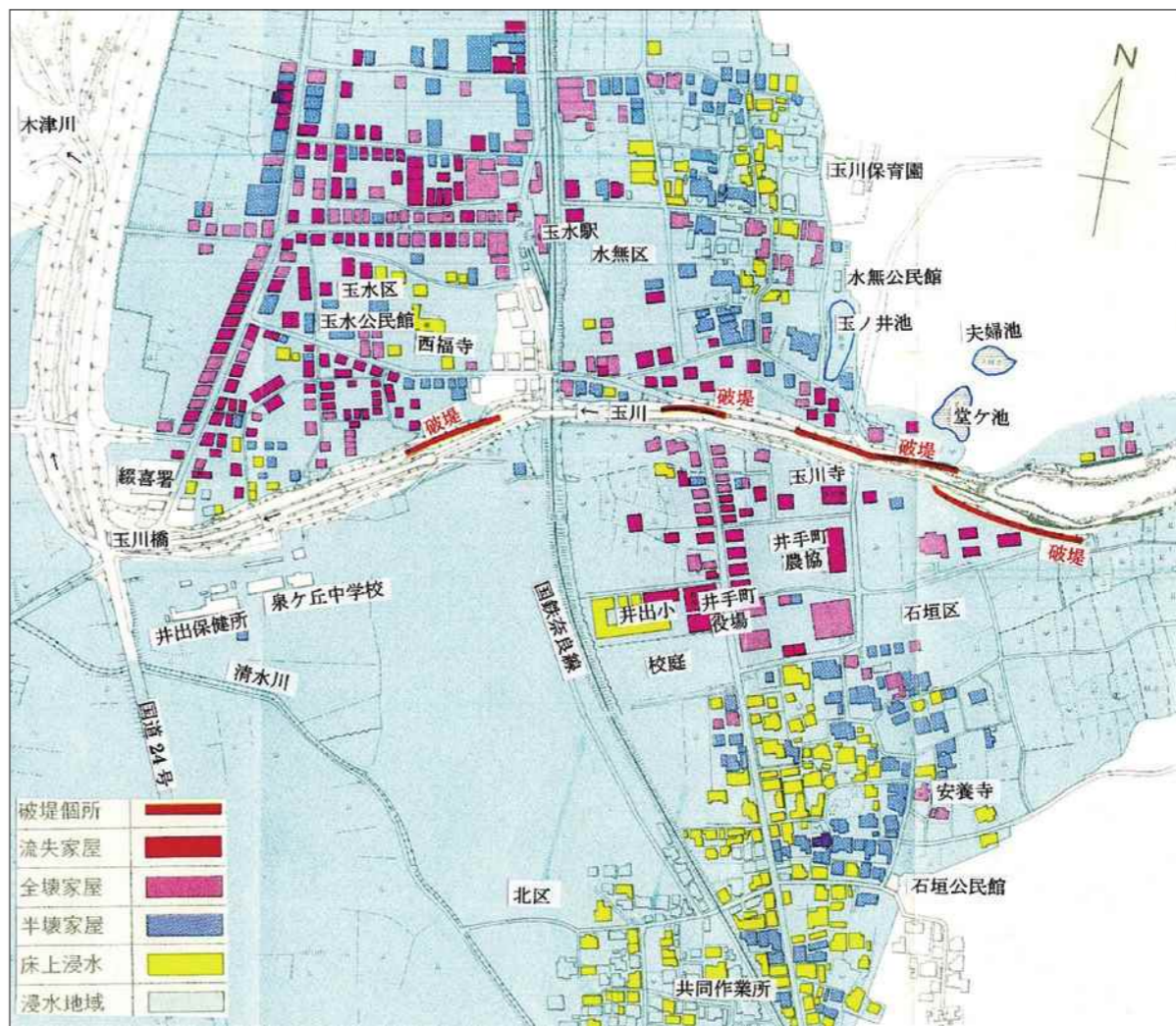


図-4 井手町の被災状況

人的被害は玉水区で死者56、水無区死者7、行方不明者1、上井出区死者1、石垣区死者28、有王区死者13でした。

#### (1) 有王区

玉川上流部に位置する大正池、二ノ谷池が午前3時50分〜4時頃に決壊し、山津波となった激流は500m程下流の山間集落有王区を襲います。林銀二郎氏によると「その頃は戸外に出られないほどの大雨であった。4時頃突然、地震のような怪音響が聞こえ、その瞬間家の前にはもう濁流が渦まいていた」ということです。有王区を襲った激流は下流の狭い渓谷入口へと向かっていきますが、同時にその水の一部が有王区に逆流してきて洪水位が河床から10mにもなり、そのため犠牲者が13名も出てしまいました。

#### (2) 石垣区

渓谷を走り抜け石や倒木を大量に運んできた激流は、谷間が広がりますと河道断面をはるかに上まわり、十兵衛池の下流約300m左岸側で長さ約130mに亘って堤防が決壊しました。激流は大きな立木を根こそぎにしてそれを回転させながら、また途中の民家をなぎ倒しつつ、石垣区の中心部を直撃しました。このため木造2階建ての役場は跡形もなくなり、小学校の3教室も玉川寺も

流失し、これらの流失家屋は国鉄奈良線の掘り込みに引っかけたり、それを超えて木津川堤防近くまで流れ出たりしました。

井手町久保田吉氏談

・宿直で役場に寝ていたが、ひどい雨で目をさます。間もなく玉川が危ないと巡視していた消防団の人が知らせにくる。そこで役場の北東約120mを流れる玉川を消防団の人と視察に行った。濁流が渦巻き、橋をどんどん越えている。これは大変と役場へ引き返し、非常サイレンを鳴らした。消防団の人は避難を呼び掛けにまわった。この間に水はどどどと足を洗いだした。そのころ森島主事が家に水がついたと来られ、平原書記も避難してきた。その時ゴォーという山鳴りの音とともに水が押し寄せてきた。そこで隣の小学校へ避難しようと思ったが、たまたまにそれまでいた役場はあつという間に流されてしまった。私は渡り廊下の柱にしがみつき、あたかも人間鯉のほりのような状態で水中にもまれていた。この間約30分である。

中田市三氏談

・一瞬にして妻子父母を失った中田さんは、家族の死体を前にドロまみれの手で目がしらをこすりながら恐ろしい当時の模様を次のように語っている。

「午前3時すぎから水が出だしたため私は消防活動に出たが、ものすごい水の勢になったので家に帰り、2階に避難していた家族に表戸口から声をかけたそのとたんに、ゴォーというものすごい音がした。一瞬にして妻子父母を失った中田さん、家族の死体を前にドロまみれの手で目がしらをこすりながら恐ろしい当時の模様を次のように語っている。

暗夜に雨 井手町(京都新聞)

・ドロ海の中に押し流された家々が軒端をジグザグにかみ合わせて将棋倒しに連なっている。わずかに水魔から免れた保健所、泉ヶ丘中学校と綴喜地区署の窓からもれる火があたり一面を無気味に照らす。木津川の西方はるか対岸の田辺の町の灯が、いやに近く明るさを増して輝く。奈良街道は消防団員を運ぶ保安隊のトラック、救援物資の自動車でヘッドライトの交サクとケンソウの往復だ。次々と救援物資が災害救助対策本部の保健所に運びこまれる。

同所ではロウソクの火揺らぐ中で救助隊長中西地方事務所長以下同所職員十数人が府職組合員の応援を得て受入れと配分に上を下への大騒ぎだ。

・警防団員一人が対策を急ぐ二階救助隊本部室に腹までつかったドロドロの姿を現わして物につかれたようなこぼれた顔で吐き棄てる様に。隊長！カンオケが足りません。それに死体にせめて線香ぐらいは何とかしてやって下さい」と叫ぶ。ひきつった顔だ。腕をまくり血だらけの負傷者が加療を待って列を作る。診療医の白服もドロで重たい。主を失った犬が一匹、低くうなり声を立てて負傷者の群れをさ迷う姿がかわれた。

避難民は井出小学校、泉ヶ丘中学校、

音とともに家がくずれ落ち、そのまま家族の顔を見ることもなく、屋根の下敷になつたままでドロ水にまき込まれてしまった。水をのみながら無我夢中で上にかけて上り傍の妹一人だけは助けたが、父母や妻子はどうすることも出来ませんでした。」

#### (3) 水無区

私の水害体験 井手町 古川平二  
〔南山城大水害60年シンポジウム 水害体験集〕より

・あれから60年。昭和28年8月15日。私は18才。高校を卒業して4ヶ月目未明の出来事。私の家は「上玉川橋」の右岸、数10mの所にある。

昨夜来の雨が、ますます激しくなってきた。夜明け前、母が「水がきているので畳を上げよう」と寝ていた私を起こした。家の外へ出てみると一面の水。30cmぐらいの深さだったと思うが、東から西へ勢いよく流れていた。「これはただ事ではない」と思い家の中へ入り、畳を挙げて座敷机の上へ積み上げた。

しかしその間に水位は急激に上がってきたので、家の北西に建っている「倉」へ家族みんなで逃げ込んだ。その2階の窓から、南の方(玉川の方)を見ると、前にあった近所の家が土煙をあげて流れていた。玉川が切れたのだ。それは、今までに見たことのない恐ろしい光景であった。あの時の光景は、脳裏に焼きついている。

夜が明けて下へおると一面が「ドロのうみ」。家の前が大きな川になって濁流が玉水駅の方へ流れている。玉川が切

れて玉水の方へ流れていたのだ。家からは西や南の方へは行けない。大変なことになった。

昼ごろだったと思う。家の前から国鉄奈良線の跨線橋の方へ、川の中をロープを張ってそのロープ伝いに救援の人々が来てくれた。家族みんなが助かった。しかし、あとでわかったことが近所の分家の親子は茅葺の屋根とともに遠くまでながされ、隣組の人々も何人か流されて亡くなった。多くの人が亡くなり、町は壊滅的な被害を受けたのだ。(後略させて頂きます。)

#### (4) 玉水区

原田善三氏談(南山城水害誌より)

・8月15日午前4時前、急を告げる役場のサイレンが鳴り響き、それと同時に水がぐんぐん増してきて腰あたりまで浸かった。これは大変と思ひ裏手を流れる玉川堤防に駆け上がると、対岸が決壊して玉水区がどんどん浸水していました。

辻本秀雄氏 遭難記(京都新聞)

・原田氏が玉川堤防に駆け上がったまさにそのとき、玉水区では辻本秀雄氏が生死の境をさまよっていたのです。井手町在住 辻本秀雄氏は、濁流の中で幼児を抱え身を以て逃れたが、母親と妻を見失いました。その災禍をおしてつづつたのが次の遭難記です。

・4時20分だった、ゴウーという悪魔のうなりのような音が目覚めたとなんか表戸をへし折って水がながれ込んで来た。危い！家族と共に裏口へ飛び出したが次の瞬間ガラガラという音と頭の上か



## 水都大阪と幻の大阪大国技館(6)

水都の会城北川プロジェクト(代表 藤井 薫)

### ミラクル稀勢の里。荒れる大阪場所!

平成29年春場所。13勝1敗の横綱稀勢の里は、1差で追っていた大関照ノ富士を本割で破り、13勝2敗で並ぶと決定戦でも連勝。2場所連続2度目の栄冠を掴みました。手負いの横綱によるこの奇跡の逆転劇の舞台として、全国の注目を集めたのが大阪府立体育館(現名称:体育会館)でした。

昭和62年に建設された現体育館や建替前の旧体育館は、専用施設ではありませんが、大阪の相撲興行館として、初代新世界、2代目関目(大阪大国技館)の系譜に連なる大阪の「国技館」ともいえるべき存在です。



大阪府立体育会館(エディオンアリーナ大阪)



旧大阪府立体育館



旧府立体育館 正面

### 府立体育館「無粋な外観」の謎

中段の写真は昭和27年12月に浪速区新川町3丁目にて建てられた旧府立体育館です。大阪府建築部管轄課の設計監理により、鉄骨工事は(株)巴組鉄工所、建築工事は(株)新工務所により施工され、延床1868坪、総工費1億4千万円でした。観客収容数は2千6百人ですが、春場所の興行時に仮設の棧敷を組むと、約1万人弱収容できたようです。

南海・地下鉄難波駅から徒歩5分に立地するこの「難波の体育館」は様々なスポーツイベントやプロレスなどで難波っ子の人気を集めてきました。



初代大阪国技館(新世界の国技館)



2代目大阪大国技館(関目の国技館)

しかし、写真を見ると新世界や関目の国技館が、立派なドーム屋根に覆われ、正面もスタイリッシュなデザインに、平板で味もそっけない姿は、まるで倉庫のようです。それに正面には、何やら巨大な入口のような不思議なデザインまで見えます。一体これは何なのでしょう?

実は第3代国技館ともいえるべき旧府立体育館が、こんな外観となったのには、知られざる秘密がありました。

### 東西「国技館」の意外な共通点

ここで正面の入口の様なデザインが真正正銘、格納用の開口部だったと言え驚かれるでしょうか。

実はこの建物、旧日本軍の航空機の格納庫を移設して造られたものだったのです。外観が無粋な訳です!昭和27年4月の日本の占領下からの独立を記念し、建設されたこの旧体育館は、建物自体が平和国家日本

を象徴していたとも言えます。ちなみに東京でも両国国技館が戦災に遭い、



東京蔵前国技館

### 府立体育館建設に至る謎

再建されたのも束の間、進駐軍に接収されたため、蔵前に新国技館を建設することになりました。昭和25年に未完成のまま仮オープンした蔵前国技館もやはり厚木の海軍格納庫解体鋼材を転用して造られたものでした。戦後の物資難の時代らしいエピソードですが、軍の格納庫の鉄骨が東西において相撲興行に使用されたというのは偶然の一致でしょうか。

そもそも、旧府立体育館ができたきっかけは、昭和23年頃、高松宮殿下が来阪された際、当時の赤間府知事に「府民むけ体育館はあるのか?」と問われたことが契機だといえます。府民スポーツの向上は重要施策ですが、戦後、財政が逼迫していた当時の大阪府にとって体育館建設は、異例の大盤振舞だったと思われる。実は、旧府立体育館の建設に至る

経緯にも、知られざる、それも相撲協会が関わる「逸話」があったのです。この事実を、世間から忘れ去られていきましたが、ひょんなことから明るみに出ます。昭和33年2月、府議会総務委員会において種田府議が「府立体育館は条例により個別に使用料がきっちり定められ、料金徴収されているのに相撲協会だけでは、体育館の敷地全体を根拠もなく丸ごと貸している。この扱いは使用料徴収の条例主義に反するのではないか。」と質問します。営利用が想定されていた府立体育館には、独立採算で運営するため特別会計が組まれていました。

質問内容の是非はともかく、質問に対する浜田教育長の答弁により、昭和27年の体育館建設当時、大阪府が体育館建設費1億4千万円のうち、相撲協会から2千4百万円の寄付を受けていたことが明らかになります。

これが事実なら、相撲協会は「相撲取だけにずいぶん太っ腹?」で、大阪府にずいぶん協力的だったように見えます。しかし、実際には、気が良いだけでなく、寄付の際に大阪府と興行時の体育館利用に関し、特別な

約束が交わされていたようです。

この頃、協会は大阪の各地でテナントを張り、何度か興行しましたが、雨が降るなどして不入りに終わったようです。そして結局、昭和26年に体育館建設予定地に仮設の国技館を建設し興行します。協会も立地の良さは熟知していたようです。

これらの周辺状況を鑑みると、実際には、逆に協会側から大阪府に体育館建設を働きかけたものと見えます。高松宮殿下の唐突なご下問も協会にとって渡りに船だったわけですね。

### 大阪大国技館との見えざる関係

郊外に立地していたため、集客に苦勞した大国技館と比べ「難波の体育館」の立地は抜群です。ただ、繁華街だけに土地の権利も複雑で、役所が広大な用地を買収するのは非常に困難で、時間もかかったこととされます。一体どうしたんでしょうか?

意外なことに、ここで本稿のテーマとなる関目の大国技館との繋がりが見え隠れしてきます。実は先日、大



川又貞次郎

国技館を建設した旭土地興行(株)の社長、川又貞次郎

(後に相模鉄道社長の追悼集(昭和36年相模鉄道編)を見てみると、川又が戦後、相撲協会の委嘱により難波の体育館の敷地を取りまとめ買収したと書いてあったのです。驚いて不動産登記簿を見ると登記上、昭和23~25年に土地を買い集めたのは南海電鉄で、それを大阪府が昭和26年に一括購入しています。川又に関する記述が正しいとすれば、協会の依頼を受けた辣腕の川又が配下を使い、取りまとめた土地を南海に一旦購入させた後、大阪府に買い取らせたというのが真相のようです。

相撲協会は蔵前国技館の建設費用にあてるため、戦前、大阪の国技館建設用地として確保していた福島区の土地を昭和22年に手放しています。自力建設が困難な以上、大阪府に興行可能な「国技館」建設を肩代わりして欲しかったのでしょう。南海も難波駅周辺の集客施設の建設なら喜んで協力したはず。短命に終わった関目の大国技館に対する川又の無念が戦後「幻の大国技館」を蘇らせたのかもしれない!

### 水都大阪と府立体育館

いくら交通至便の地といっても数



府立体育会館 周辺地図 (大正13年 大阪市パノラマ地図)

【写真提供】「大阪府立体育会館」大阪府立体育会館 「旧大阪府立体育館正面」雑誌 建築と社会

「旧大阪府立体育館」大阪府立体育会館 50年の歩み 「東京蔵前国技館」財団法人日本相撲協会並びに株式会社鹿島建設



天野川に合流する尺治川(写真左の流路)と、流路が変わり機能を終えた尺治川砂防堰堤(石積み)。このあたりは天野川「水辺プラザ」として、地域交流の拠点にふさわしい水辺空間を創造している。



所在地 大阪府交野市私市7丁目9丁目



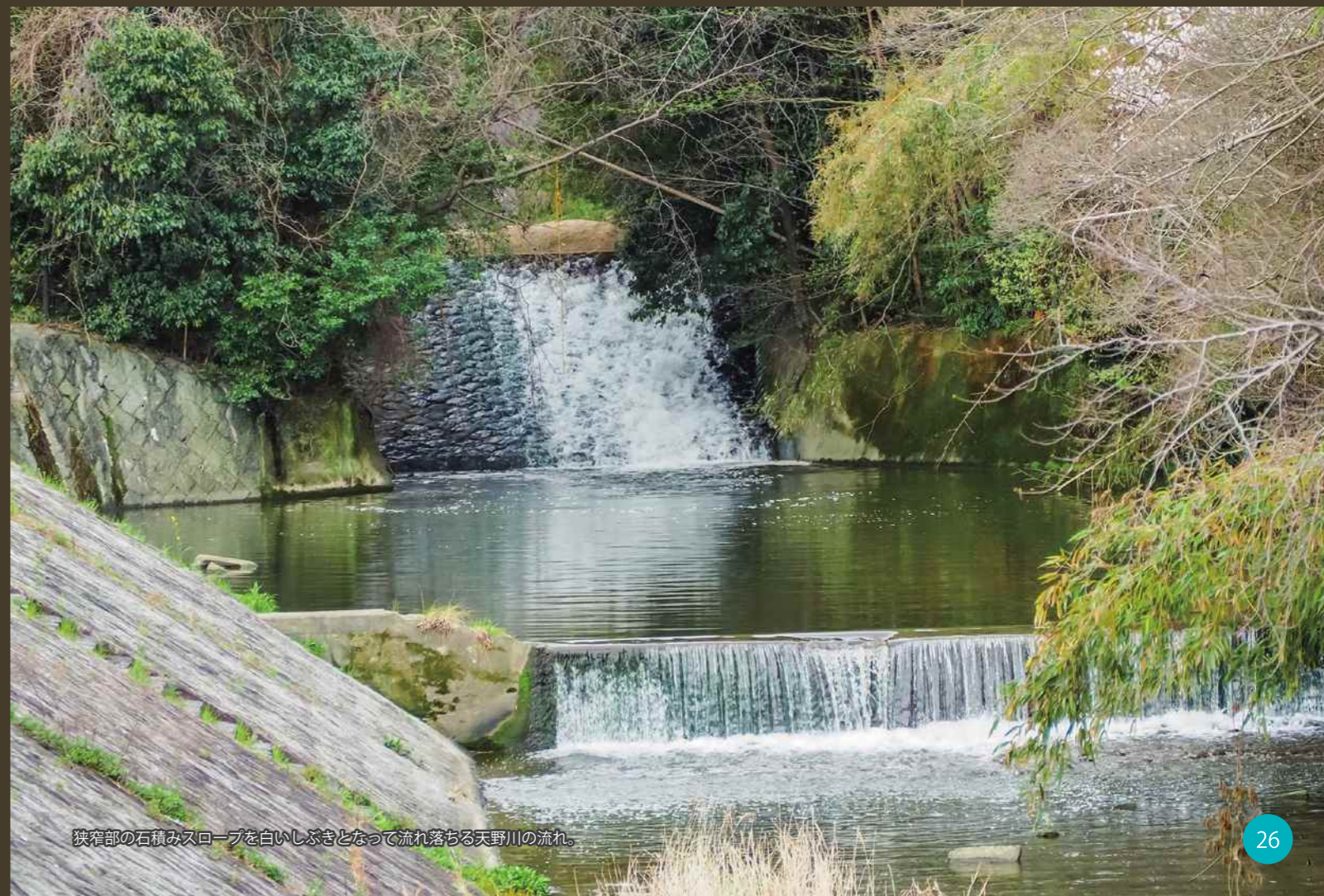
尺治川砂防堰堤

砂防施設としての役目を終えた堰堤。上流の天野川砂防堰堤と合わせ、後世に向け保護継承を行う貴重な国民的財産として2003(平成15)年「登録有形文化財(建造物)」に登録される。2007年の「私市水辺プラザ」造成工事時に尺治川本流は北側へと移設された。歴史的価値の高い砂防堰堤は、整備された親水水辺空間の中心となつて、自然環境を親しむ市民の散策や憩いの場となっている。

諸元	
石造堰堤	
堤 長	9.2m
堤 高	2.2m
下流側左右護岸付	
築 造	明治後期
文化財登録	平成15年1月31日

## 尺治川砂防堰堤

水辺プラザを見守り続ける



狭窄部の石積みスロープを白いしぶきとなって流れ落ちる天野川の流れ。



所在地 大阪府交野市私市私市9丁目



天野川砂防堰堤(上流側)

1889(明治32)年に建造された石積みの美しい堰堤。滝となって流れる川の風情は涼しげで、ここが癒やされます。全国に先駆け近代砂防の範となった技術レベルは、当時の技術水準の高さを物語っています。今も砂防堰堤として機能し、また灌漑用水の取水にも寄与しており、地域に根ざした貴重な近代化遺産です。

### 諸元

石造堰堤	
堤 長	7.1m
堤 高	1.7m
堰堤左右護岸及び下流側左護岸付	
築 造	1899(明治32)年
文化財登録	平成15年1月31日

## 天野川砂防堰堤

大阪府最古の砂防施設

## 砂防堰堤

「砂防のまち交野の近代土木遺産」